

## 地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームは、理念を玄関掲示板に「公平・公正、安全・安心」と掲げている。(法人理念)	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は共有できているが、介護の理念については、周知不足である。	○  あやか園の「介護理念」を職員皆が理解できるよう進めていきたい(ただ覚えるだけでない)
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的を開催する運営推進会議で、その旨を伝えている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームの職員が地元の方であるし、行事等(避難訓練等)の際は近所を回り、声かけをしている。普段も顔を見れば挨拶等している。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームは、地区会に所属し地区の行事(清掃等)の参加をしている。実際に、区費を払って他の地域の方達と同じようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区会に所属し、話し合いの中で区費を納める事や、清掃活動等への参加をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けて、あやか園に今後必要な取り組み等を定めて、実施していきたい（今回が初めての外部評価）		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	消防設備や、あやか園にて提供している食事を実際に食べてもらう。また、委員の皆様にも遠慮なく意見を出してもらい、サービスの質を高めるようつとめている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、地域包括支援センターの主催する勉強会への参加・または、直接出向いて情報交換をする場を作っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業は、管理者と一部の職員が把握しているにとどまっている。	○	権利擁護事業の内容を職員がしっかり理解して、必要な方に関して、提案が出来るように努めていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が「痛い・怖い」と感じる事は、絶対に行わない。利用者を、軽んじるような言葉は使わない等、心がけている。	○	虐待は、身体的な事だけでなく、職員の態度・言葉遣いも十分に虐待になりうると思う。他に、可愛いから等と利用者にすぐわない幼稚な格好（利用者は嫌なはずなのに、職員だけが可愛いと思うようなもの）は好ましくない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>体調・病状が急変した場合の処置（例として救急車、どこまで医療的に行うか等を契約時にしっかりと話し合う必要があると思う）</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>職員全員が家族とよく話し合い、意思の疎通が図れるようにしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>14で挙げたように、職員全員と家族が自由に意見交換できる雰囲気を作っていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>職員の要望については、利用者本位のものであれば歓迎したいが、職員の都合に合わせ、利用者置き去りの意見は遠慮してもらいたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>現在の勤務シフトは、オープン当初のものから変わっていない為、満床となった現在時間配分等調整が必要な職員の意見と、利用者本位の勤務シフトは違いがある。尚、出勤の人数は配置基準を満たしていない日は無い。実現可能な部分であれば対応していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>他にも、勉強会やカンファレンスの時間を設けたほうが良いと思う。利用者個々のカンファレンスを行う事で、職員全員が情報やケアの方法を共有できるし、介護技術・看護知識等の勉強会は、担当を決めればもっと効果が大きいと思う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、入所前に利用者宅・その時に利用している施設等に行き、その時の状態を把握する。家族や本人から、色々話を聞いて情報を得る。そして、あやか園にて会議を持ち、入所までのその方をする。そして、入居後もマンツーマンでコミュニケーションを取る（不安や不満、何をしたいか想いを聴く）	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同じ（入居前には、自宅や利用中の施設を訪問して、家族からの聞き取りを行っている。また、担当のケアマネージャーからも出来るだけ情報提供をしてもらっている）	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば、グループホーム入居対象者でなくとも（介護保険適用外）相談援助を行い、別施設の紹介、自分たちが分からない時は、支所の職員等と一緒に相談に行き、対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	あやか園に入る前に、家族と一緒に行事等に参加する等、雰囲気を確かめ、また少しずつ慣れてもらっている。場合によっては「一日体験入居」を行い、その上でサービス利用を判断してもらうよう取り組んでいる。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションの中で、本人の訴えや話を聴き、様子を見て相談や助言をする。また、施設だからこれは駄目と言う考えを無くし、どうしたらこの人がしたい事が出来るのか、考え対応している。	

宮崎県宮崎市田野町 グループホーム田野あやか園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	○	<p>面会、行事等の際に職員が状況報告をして、本人を交えて、一緒に談話する機会をもっと作ってきたい。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	○	<p>各利用者担当も協力し、家族への電話や（時折しか出来てない）手紙などを書いたりする事等今後増やしていきたい。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	○	<p>本人が生まれ育った場所に、ドライブに行ったり、写真を撮ったりする事がしたい。また、家族の状況により外出が厳しい方もいるため、その方達の対応方法を考えていきたい。</p>
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	○	<p>表情や体調を把握して、協力し合いながら過ごせるようにしていきたい。</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>退去後も、管理者が定期的に家族に連絡を取り、情報交換をする。（ケアマネージャーにも、同様に情報を交換していく）</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院等で、他利用者と生活が異なる方など、食事・おやつの事で時間など希望があるが、本人の訴えを受け入れる。また、日中の過ごし方など本人の特徴を生かしながら、声かけを行っている。また、利用者本位の生活をしてもらう為に、そのニーズをキャッチできるように努力している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に得た情報を基に、本人・家族とのコミュニケーションの中で、把握している。	○ 利用者や家族より、これまでの生活歴を聴き、何が好きか、嫌いかどんな仕事をしていたか等を、シートにまとめている。そのシートを活かして生活支援していきたい。また、ケアプランのアセスメント等が、上記の把握に役立てられるように、アセスメントを充実させていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや記録・台所から利用者を見渡して、状態を理解する。また、ケアプラン等のアセスメントを参考に状態像を把握している。	○ 現在は、特に何もせずという利用者もいた為、涼しい時間帯等に庭いじりなどの本人の趣味を活かした活動提供をしたい。また、ケアプランのアセスメント等をもっと有効活用していきたい。(気づきシート等併用しながら)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを実施している事を前提に、月一回のミーティング(カンファレンス)や関係する医療機関、家族に意見をもらいながら、介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、一か月一回のモニタリング、必要時はその都度見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間に気付いた事や、感じた事は記録または気づきシートに記入して、職員同士で話しあっている。	○	出来る限り職員全員の意見等をカンファレンスにて挙げてもらい、ケアの目標を見失わないよう共有していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や友人と連携を図る事により、柔軟な対応を行っている。また、買い物訴え時等に友人や、場合によっては職員が付き添い、支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望等により、マッサージ（自立援助協会）を利用してもらっている。また、消防訓練時には消防署や、地域の方々にも声かけして、協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同地域とのケアマネジャーとの、情報交換の機会を定期的に設け（訪問等して）必要な時は、迅速に対応できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、運営推進会議や定期的な訪問を管理者が行い、必要な時に対応できるようにしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけ医がいる。病院との連絡も取っており、受診や応診時には利用者の状態報告を行っている。現在全ての利用者の、受診及び往診を行っている。また、夜間や急変時にも出来る限り対応してもらうようにしている。	○	家族も忙しい為、なかなか付き添いが出来ずに、あやか園にて対応しているが、利用者の状態を知ってもらう為にも、数回に一度の頻度で良いので、家族も一緒に受診等の立ち会いが出来るようにしたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、かかりつけ医と相談して、助言・指導をもらうようにしている。	○	病院で相談しても、専門医でないと対応してもらえない事があるので、その場合には家族と相談して専門の病院への受診を勧めている（全利用者に出来るようにしていきたい）
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員は勿論、かかりつけ医の看護職員と協力・連絡等を取りながら支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院後も安心して過ごせるように、主治医とのコミュニケーションを取ったり、家族との連絡を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期等の指針については、医療連携体制加算届出時に必要な書類を通して、家族に説明している。	○	関係する医療機関（かかりつけ医）にも、趣旨を十分に説明して、協力を得られるようにしたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携体制加算を届け出るに当たり、ホーム職員に周知をしているが、定期的に勉強が出来ていない。		重度化した場合や、終末期のケアについてもっと勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	あやか園においては、別の居所に移る場合の支援 をまだ行った実績がない。	○	居所を移る場合等においては、リロケーションダ メージ等に配慮出来るよう、関係機関と連携して いきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	名前・呼び方・言葉遣いを気を付けるとともに、 利用者本位の人権の尊重を頭に入れて、ケアをお こなっている。	○	主に、オムツ交換や失禁の場合、周りに気付かれ ぬよう自室に誘導が出来るよう心がけたい。ま た、職員が良かれと思ってしていても、実際に利 用者が喜んでいるのか、考えながらケアを行いた い。あやか園が幼稚園・保育園化しないよう職員 の言葉遣いやケアをもっと見直していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	全てにおいてはまだ出来ていないが、その日着る 服の選択や、食べたいお菓子など自分で選んで 取ってもらう。また、食事等は食べたくない様子 の時は、時間をおいて再度声かけするなどの支援 をしている。	○	まだまだ職員に決定権があるので、利用者本位で 一日が過ごせるようにしたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者の希望に添えるように心掛け、一日どう過 ぐすか、楽しく過ごせるように色々コミュニケー ションを取っている。(職員の人数等、全ての希 望を聴けずにいるが、出来るだけ話を聴いて、そ の人がどうしたいのか、その人に合った支援をし ている。	○	毎日同じ一日を過ごす事無く、少しでも違った一 日の流れが、出来るようにしたい。また、食事、 入浴等の時間が職員都合で動いている場面もある ので、自分が老後、ここに住みたいと思うような 時間の流れを作っていきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人、家族の要望、外出する等あれば化粧をする ようにしている。外出が難しい利用者にも、散髪 が出来るように訪問カットを依頼している。ま た、寝巻き、普段着は必ず区別するようにしてい る。	○	行きたい美容室等の場所があれば、本人の希望に 添えるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時期の旬のものを食卓にも出している。調理にはなかなか利用者と一緒に出来ていないが、包丁を使わずにできる皮むきなど、テーブルに出して一緒に行っている。スイカなどは、目の前で切って味見してもらっている。また、食事の際は「頂きます」を唱和してもらえる雰囲気作りを心がけている	○	現在は、食事メニューが決まっているが、たまには利用者の希望に添った内容にして、一緒に料理できるようにしたい。
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	就寝前に飲酒する習慣のある利用者があるので、対応している。また、外出し自分で好きなお菓子や、自販機で散歩がてらジュースを買いに出たりしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日に定期的にトイレ誘導の時間を設けている。その他、訴え時には誘導を行う。排泄チェック表を作り、排便の有無を把握している。	○	日中のパット等の使用量が多いと感じる。利用者の状態に応じた適切なオムツ等の使用を徹底したい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤を使用したり、共に歌を歌いながら、入浴をしている。入浴日は決めているが、拒否等有る場合は別の日に入れるようにしている。	○	毎日入浴が出来るような日程の工夫。
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度調節・物音・光などに配慮する。中には眠るまで明るい方が良いと言われる方もいるので、眠るまで明かりをつける等の工夫をしている。無理に寝てもらわず、寝たい時に居室へ案内している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外へ出ると喜ばれるので、近くの公園に出かけたり、庭に出て花の手入れをしている。しかしながら、まだ充分訴えに対応できない事も多い。	○	気晴らしの為の外出は、同じ人ばかりでなく全員が平等に外出できるよう、プログラムを組みたい。儀業務の中に入れていく等考えたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理できる方には、持ってもらいが通帳などは、あやか園にて保管し、訴え時に使用してもらい。何に使ったか分かるようにもしている。また、他の方も小銭を持ってもらい、自販機などで買えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は自立度の高い利用者であるが、家族・友人・職員とともに外出している。希望時には、買い物・外食もしている。	○	全員が平等に外出出来るよう、職員も全員が外出等に関われるように、計画を立てていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お茶をしに、ファミレス等を利用し外出する。家族が身近にいない等、なかなか外出困難な方もいるが、職員とともに外出している。	○	全員が揃って外出できるような計画を立て、実施していきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要に応じて、電話でのやり取りをしているが、一部の利用者に留まっている。	○	年賀状等を書いたり等の支援をしていけるようにしたい。(手紙も同様)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に入れるように(夜間以外)玄関は網戸にしてあり、また、面会時には状況に応じ、居室でゆっくりと話してもらうよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あやか園の事務所内に身体拘束に関するマニュアルを準備して、身体拘束の定義、また、拘束をしない工夫のポイントなどを、ミーティング等を通して考えが共有できるよう勉強している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	居室は、利用者によっては嫌がる方がいるので、仕方ないが、入口は鈴などを付ける等の工夫が出来る余地がある。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	ホールには、必ず職員が一名いるようにしているが、たまに誰も居ない時がある。職員間での話し合いが必要である。独歩（歩行不安定の方）から目を離す事がある為、全員で見守りが徹底できるようにしたい。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	ミーティングで、ヒヤリハット等の件数報告はしているが、リスクマネジメントの観点から、どうすればリスクの軽減が出来るか、また、リスクマネジメントについての勉強会を行いたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	いつでも、誰でも対応が可能なように、救護等の対応方法について、定期的に勉強会をしたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>いつもと違う変化を、見つけられるよう毎日観察を行う。食事の摂取量等、食欲の低下が見られれば医師と連絡を取って指示をもらうようにしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>例えば、受診や応診時等で処方される薬が変更になった場合は、その都度用法・用量の確認と理解をしている(薬剤情報書等を利用して)また、その事を職員全員に申し送っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い、出来るだけ体を動かすなど行っている。また、下剤等を使用し排泄コントロールをしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>朝・夕の口腔ケアの身に留まっている。</p>	<p>○ 義歯のみでなく、口腔内・舌もケア出来るようにしたい。出来る限り洗面台で行いたい。食事テーブルでの介助は止めたい。更には、毎食後の口腔ケアの実施をしたい。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材を配達する業者と連携して(管理栄養士がいる)日々のカロリー計算や、栄養バランスの良い食事を提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	こまめな手洗い消毒液の設置をしているが、徹底できていない事がある。	○	清潔・不潔の区別徹底。手拭きタオルのこまめな交換。基本的な手洗いを抜けがなくなれるようにしていきたい。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々、新しい食材を使用しており、食器も感染防止のため、熱消毒をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	凹凸、段差をできるだけ無くし、花壇には花を植えて明るくする工夫をしている。また、テラスに出入りできるようにして、そこで過ごせるようにテーブルや椅子を配置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植木を飾る事によって、心地良く過ごせる空間を作っている。（椅子等もリクライニング出来るものを用意して、リラックスできるようにしている。）		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外のテラスや、窓際のリクライニングソファ等、一人一人の居場所作りをするよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具・家具等を使ってもらっている。</p>	<p>○</p>	<p>病院から入所された方等は、馴染みの家具等がない事がある。写真等、昔の思い出を飾ってみるようにしたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝と、清掃時は各居室を換気している。また、居室・ホールともにエアコン温度等の調整を随時行い、快適に過ごしてもらっているようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内部は、基本的にバリアフリー構造であるが、利用者の身体機能を維持等する為の、歩行器具、杖等の準備をしている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>本人が出来るのに、職員がケアをしてしまう時がある。時間をかけても、少しのケアで、利用者の自信につながるよう支援している。</p>	<p>○</p>	<p>本人の持つ力（能力）奪わないように、自立支援をしていきたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外へ出たいと、要求があれば職員が付き添い、外の花を見たりできるようにしている。天候によっては、テラスでおやつ等を食べてもらうようにしている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

パンフレットにある「ゆっくり、のんびり、一緒に楽しく」を基本に、利用者を急がせないように日々生活してもらうように職員一同心掛けています。出来たての事業所なので、まだまだ至らない点も多いですが、いきなり全てにおいて取り組むのではなく、出来るところから少しずつ、利用者とともに成長できるようにこれからも「利用者を中心」という、立ち上げ時に掲げた目標を達成できるように頑張っていきたいです。